



H28・11・22 六樹会

加される方もやや少なくなりつつあります。しかし、東京やまわりの町からも参加してくださり、高校時代にもどり、お話はつきません。

何年か前、小松園で開催した時は、母校の校門から校庭に入り、私達の頃とは変わった校舎など眺めました。そして、卒業の時歌ったなつかしい校歌の歌碑を見ながら、みんなで合唱して帰ってきました。私達の在校時は、まだいろいろな点で今のように裕福ではありませんでした。衣食住は勿論、十キロ以上の通学も自転車でしたし、バスも一日に何回もは通っておりませんでした。

でも今でも同級生とは、どこで

お会いしても当時にもどりお話できることはうれしいことです。

これから元気で、皆さんと楽しくお会いできる日を大切に、すごしてまいりたいと思います。

そして母校のますますのご繁栄を、お祈りしております。

「桃林編集委員を受けて」

昭和四十七年卒業（二十四回生）

干場 美恵子



ルルルー「久しぶり、桃林編集委員の方がお辞めに

なるの、定年退職してそろそろ落ち着いた頃でしょう。どう、やってみない」、携帯から懐かしい友の声。つい、軽い気持ちで、受けてしまいました。

卒業以来四十七年、時の流れと共に学舎は変わりましたが、門をくぐると、自転車小屋の木々は、昔のままに迎えてくれ、プールや体育館等、窓からの眺めは、当時の面影が残っており、すぐに高校生活が、蘇ってきました。

現在、茨城の高校で唯一、福祉科がある我母校、その教室の見学や介護体験をし、卒業生達は各施設で活躍しているとのこと、時代

に沿った教育が為されていると、誇らしく思いました。

総会では、各役員の母校への熱意にふれ、改めて微力ですが、努めていきたいと思いました。

総会に出席して

昭和四十七年卒業（二十四回生）

白石 喜代美



書記永島さんから桃林の編集委員の欠員補充の連絡があり、年、数回

ならとおひきうけしました。

同窓会総会に初めて出席させていただき、ドキドキでしたが、先輩方の活動や活躍に元気をいただきました。

会計報告や事業報告で後輩達の学習への補助でiPadの購入、東日本大会に参加の際に新ユニフォームで頑張っってほしいとの母心？先輩の思いやりとも思える出費を拝見し、有意義に使っていただいていると感激いたしました。

午後の福祉科の教室見学や介護の際の車いすの利用方法や介護食の蒟蒻ゼリーや寒天ゼリーの実食で誤嚥の原因になることの体験学習はたいへん勉強になりました。

車いすの使い方、ベッドへの移動の仕方など、会長さんがモデルをしてくださり楽しく学習できました。

福祉は高齢者人口が増加の時代には、活躍の場が多くなると思います。今後の卒業生の活躍を祈りつつ、なつかしい校歌斉唱も楽しめた一日でした。

昭和五十三年卒業（第三十回生）

菅 原 和 美

古河二高の思い出と言えば、三年間、ソフトボール部に所属していた事が一番だと思います。真っ黒に日焼けして、鏡に映った自分を見て、ビックリした事や、ソフト焼けは、本当に恥ずかしく、水着やブルマになるのが、とてもイヤでした。同期は5名いますが、今でも年一度くらいは、食事をサポートしています。皆が揃うと、あの十代の頃の感覚に戻れるのは、いつも本当に不思議に思います。

今年、私たち学年は、還暦を迎えるので、メンバーの一人から、車を新しくしたので、監督だった植野先生の別荘に遊びに行こうよと提案がありました。先生は、年賀状をお出しすると「ぜひ、山荘へ！」とお書きくださっているの